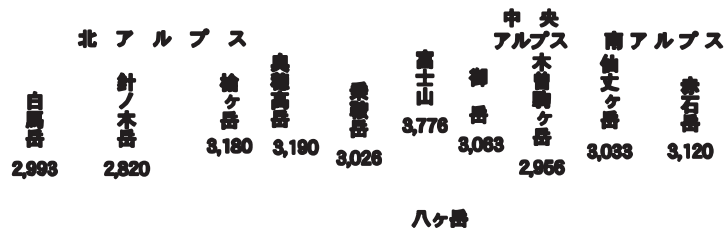
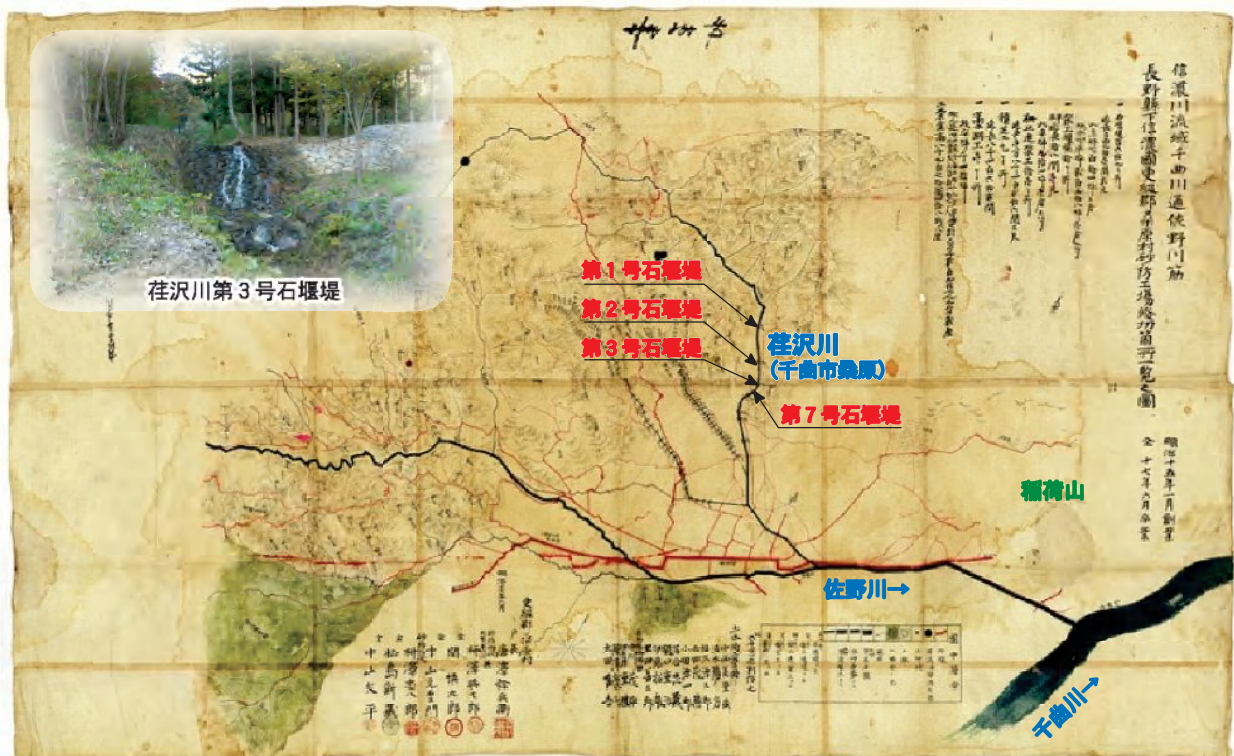


第 44 号

平成21年5月



砂防ニュースロー長野



信濃川流域千曲川通佐野川筋
長野県下信濃国更級郡桑原村砂防工事竣工箇所一覽之圖

目次

新砂防課長挨拶・平成21年度砂防関係予算	2	赴任挨拶：天竜川上流河川事務所長	10
⑥全国治水砂防促進大会開催・要望活動	3	赴任挨拶：多治見砂防国道事務所長	10、11
北信越支部長・参与会議開催	3	県内の土砂災害警戒区域等の指定状況	12、13
第3回砂防海外セミナー及び視察に参加して	4	砂防ボランティア協会応援協定調印式	14
松本市防災講演会開催	5	合併に伴う退任の挨拶（旧清内路村長）	15
荏沢川、葉師沢有形文化財登録	6、7	「長野県の地すべり」50年の歩み紹介	15
「土砂災害防止に関する絵画、ポスター、作文」		前砂防課長異動の挨拶	16
砂防部長賞受賞	8、9	平成21年4月人事異動・行事経過・予定	16

新 砂 防 課 長 挨 拶



長井 隆幸

この4月から栗原砂防課長の後任として着任いたしました長井です。

よろしくお願いいたします。沖縄からの赴任なので、当初は気温の差に体が驚いておりました。とはいうものの長野県内に勤務するのは初めてではなく、ずいぶん前ですが、松本に勤務したこともあります。また昔は山歩きをやっていて、夜行列車に乗ってよく長野にお邪魔していました。

長野は日本有数の山岳県で、その美しい風景が何よりの魅力だと思います。前任地では山らしい山を見ていなかったもので、雪を頂いた大きく高い山は、神々しくもあり、私の目に新鮮に映りました。また、身近な背の低い山々も、サクラやコブシが咲いていたり、花のない木々も新緑が芽吹くにつれ、日々その色を変えていくのを見るのもすがすがしく、生命の力強さを感じさせてくれます。

しかし、美しさは、危険の裏返しでもあります。長野では毎年のように土砂災害が発生しており、平成18年7月には10名もの犠牲者を出す土石流災害が発生したことは、記憶に新しいところですが、砂防事業は、そんな厳しい自然のなかで人々が安全に暮らす隙間を創り出すものであると思っています。美しくも厳しい自然と人々の暮らしの調和を図る事業として推進していきたいと思っています。

事業の推進に当たっては、近年被災した箇所の再度災害防止を重点的に進めるとともに、県内各地の土砂災害危険箇所において、施設によるハード対策と、逃げる対策や土砂法による区域指定などのソフト対策を一体的に進め、土砂災害防止に努めていきたいと思っています。

着任してまだ間もないのですが、市町村長さんや地元の方々とお話しする中で、砂防事業に対する期待の大きさを強く感じています。みなさんの期待に応えられるように、砂防課職員一丸となって取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

平成21年度 砂 防 関 係 予 算

平成21年度の本県砂防関係事業の当初予算は、公共事業費が99億円強で対前年比0.89、県単事業が5億円強で対前年比0.85となっており、災害関連事業を加えた全体事業費は約110億円強で、対前年比0.89となっています。

平成21年度砂防関係予算

(単位：千円)

事業名	平成21年度当初予算(A)	平成20年度当初予算(B)	対前年当初比(A)/(B)
●砂防総務費	393,779	387,144	1.02
●補助事業			
□砂防費	6,203,000	7,576,000	0.82
□地すべり対策費	2,110,000	2,047,000	1.03
□急傾斜地崩壊対策費	1,595,527	1,551,474	1.03
小計	9,908,527	11,174,474	0.89
●災害関連緊急砂防等事業			
□砂防費	72,000	72,000	1.00
□地すべり対策費	120,000	120,000	1.00
□急傾斜地崩壊対策費	24,000	24,000	1.00
小計	216,000	216,000	1.00
●県単事業費			
□砂防費	274,468	328,100	0.84
□地すべり対策費	93,593	100,200	0.93
□急傾斜地崩壊対策費	137,850	168,558	0.82
小計	505,911	596,858	0.85
●砂防受託費	30,000	30,000	1.00
計	11,054,217	12,404,476	0.89

全国治水砂防促進大会開催・要望活動

平成21年度砂防関係予算確保に向け「全国治水砂防促進大会」が平成20年11月27日に砂防会館（東京都千代田区）で開催されました。当日は、全国から1,123名が参集し、本県からは中村会長をはじめ93名の会員・関係者に御出席いただきました。

大会に先立ち、テレビ長崎佐世保報道部記者の穂田禎子さんより「普賢岳噴火災害・長崎豪雨災害から学んだこと～マスコミとどう向き合うか～」と題して特別講演が行われました。

大会は、綿貫全国治水砂防協会長の挨拶に始まり、西銘国土交通大臣政務官より祝辞がありました。次に、中野国土交通省砂防部長から「砂防行政の動向について」と題して国における砂防事業への取り組みや今後の在り方についての講演がありました。また、会員代表の宮崎県佐藤原市長と岐阜県揖斐郡宗宮揖斐川町長から意見発表が行われました。

その後、小林副会長が「提言(案)」を発表し、満場一致で採決されました。

大会終了後、本年度も中村会長をはじめ役員・関係者により砂防及び地すべり関係事業の促進について、県選出国議員及び財務省、国土交通省等関係省庁に対し要望活動を行いました。



平成20年度 全国治水砂防協会・北陸信越地区支部長参与会議開催される

平成20年11月に全国治水砂防協会・北陸信越地区支部長参与会議が、上水内郡信州新町の「さざり荘」において開催されました。国土交通省砂防部から中野砂防部長も出席され、近年の気象状況変化や土砂災害発生状況などを説明、全国治水砂防協会の岡本常務理事は砂防事業による地域活性化に関するアンケート調査の報告をされました。

この後の討論では、各県から土砂災害や砂防行政について、それぞれの実情を踏まえた熱心な意見・質問が交わされ、会議時間内では収まらず、その後の意見交換会に持ち越されました。

会場は、犀川が見渡せる豊かな自然に囲まれた静かな地ですが、この日ばかりは、砂防談義でにぎやかな夜となりました。

翌日の現地見学は、善光寺地震で犀川を塞ぎ止めた長野市の涌井地すべり地や地附山地すべりを見学し、中山間地の土砂災害の現状を確認し、有意義な会議として、閉会しました。



第3回 砂防海外セミナー及び視察に参加して

白馬村役場 建設水道課長 倉科 宜秀

平成20年10月19日から24日まで4泊6日の期間でハワイ島にある世界でも有数の火山、キラウエア火山や米国地質調査所ハワイ火山観測所等の視察に参加させていただきました。ハワイ島のワイクパナハ・オーシャン・エントリーでは、大量の溶岩が海まで流出しており、写真1に示すように地下トンネルを流れる溶岩を見る事ができました。



写真1 地下トンネルを流れる溶岩



写真2 海水面で水蒸気を吐く溶岩

また、溶岩の流れが海に流入する地点では、蒸気が高く立ち昇り海面では溶岩が水蒸気を吐きながら沈んでいく光景が神秘的でした。(写真2) キラウエア火山について、ハワイ火山観測所長より説明を受けました。「キラウエア」とはハワイ語で「噴出する、または「まき散らかす、という意味だそうです。キラウエア火山の火口内に小さな溶岩池ができ、現在ここから噴気を上げている、正に生きている火山を目の当たりにしました。2回目の海外ということもあって多少不安でしたが、とても有意義で充実した日々でした。

この場をお借りして感謝申し上げます。

笑輪町役場 建設水道課長 竹村 優

私は今回「世界の火山防災を学ぶ・火山島ハワイの歴史と未来」と題した海外セミナーに参加できるチャンスに巡り会うことができました。火山の大家・東京大学名誉教授・荒牧重雄先生の随行をいただき総勢10人の現地視察であります。主たる目的は、火山防災に関する行政の対応と現地視察であります。

「第1日目(平成20年10月19日)カラバナ東海岸の視察」カラバナと呼ばれる美しい黒砂海岸での漁村は、ハワイ島東海岸に位置しておりましたが、1990年にクパイアナハ噴火口からの溶岩流の15mの下に飲みこまれて、200世帯ほどが海岸線から消えてしまったとのこと。その溶岩流の面積は180km²(15km×12km) 体積4万km³で溶岩の野原と化してしまっていました。また、ハワイ島火山国立公園内へのツアーにはそれなりの手続きで自らの意志による「権利放棄及び責任免除の同意書」への署名であります。しかし、思い出せば歩いてきたあの溶岩の状況をみれば、あるいは中に落ちてしまっても仕方ない、おかしくないと思わざるを得ない自然の力でありました。

「第2日目(10月20日)キラウエア火山(ハレマウマウ火山口)の視察。ハワイ火山国立公園で公園事務所、火山観測所の訪問」「第3日目(10月21日)ヒロ横関、津波博物館の視察」「第4日目(10月22日)ハワイ大学で地球物理学教室にて火山災害について意見交換」Bruce Houghton博士(地質学)から、「ハワイは住民を中心に土地利用計画から防災計画まで作っているが、住民の意識が違い日本の火山は大変勉強になる。災害は、津波、ハリケーンがあげられるが、最近では、ガス、海岸浸食、海面上昇の3つが問題である。」と説明がありました。

今回この海外研修に参加させていただき地球上いたる所でいかに自然災害から地域を護っているか身をもって研修することができました。関係皆様に心から御礼申し上げます。

第2回 防災講演会 《身近な防災について学び活かす》

平成20年11月5日（水）松本市Mウイングにおいて昨年初回の地震防災講演会に続き、第2回防災講演会を標記のテーマで開催いたしました。（主催：松本広域土木振興会・松本建設事務所）

講演会では、現在中山間地が抱える問題、地震と土砂災害への対応のあり方、土砂災害防止法等、身近な防災のあり方の講演を通じ、広く一般住民及び防災関係者が防災に対して一層の理解と関心を深め、更には防災能力の向上を期待し、開催したところです。

基調講演では、信州大学名誉教授 北澤秋司氏から「中山間地の防災について」と題して、専門的な知識と土砂災害現場での対応経験から豪雨災害のメカニズムの解説やその防災対策について講演されました。

講義は、NPO法人 梓川流域を守る会理事長 藤澤繁雄氏に「上高地と梓川」と題して現在の上高地が抱える問題や自然災害への防災の取組み等について、平成18年7月豪雨で決壊した登山道や河童橋周辺の災害とその復旧の様子を写真等で紹介された。この中で素晴らしい自然と共生するために維持管理の必要性を強調されました。

北陸地方整備局 工事品質調査官 上原信司氏には、国土交通省が組織した緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）のメンバーとして、岩手・宮城内陸地震の山崩れによって川が堰止められてきた地震湖の緊急放流の現場指示に当たられた経験を踏まえて「地震による土砂ダムとその対応」について講義されました。また、松下泰見 松本建設事務所長からは、実際に災害が起きた場合での行政と建設業協会との災害協定についても説明がされた。



基調講演『信州大学名誉教授 北澤秋司氏』



講義 『NPO法人理事長 藤澤繁雄氏』



講義 『北陸地方整備局 上原信司氏』

ホール（ホワイエ）には、平成16年新潟県中越地震の山古志村、平成18年7月豪雨による災害写真或いは、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震でできた土砂ダムの排水作業状況の他、上高地の災害や景観と環境に配慮された直轄砂防工事など32点の写真パネルを掲示した。

今回の講演会には、県・市町村職員、土木建築関係者、一般住民の方を含めて420名（定員360名）の聴衆が詰め寄り、熱心に聴講されました。参加者へのアンケートによると地域住民からは「大変有意義であった」、「引き続き実施して欲しい」等の多くの意見が寄せられ、評価を頂きました。最後に講演会を開催するに当たり、講師方々をはじめ、協力いただいた関係者に改めて感謝申し上げ、開催報告と致します。



『上高地 河童橋』



『ホワイエのパネル掲示』

明治時代の砂防施設が 「登録有形文化財」に登録されました。

『荏沢川の石堰堤（千曲市大字桑原）』

『薬師沢の石張水路工（小川村大字稲丘）』

長野県の本格的な砂防事業の始まりは、明治13年木曾川水系の蘭川で国の直轄工事が行われてからで、以後百年以上、多くの先人達が砂防事業推進に尽力され、長野県各地に様々な施設が築造されてきました。明治時代の砂防施設は石積みや木橋、積柴など、施工も人力で行われてきました。大部分は時間の経過と共に土と草に埋もれ、施設としての効用を果たしながらも姿を隠していましたが、県内には現在も、築造当時の姿のまま保存されている施設があります。



薬師沢（小川村稲丘）富吉沢石張水路工

今回、それらの施設のうち、千曲市大字桑原にある『荏沢川の石堰堤』と、小川村大字稲丘にある『薬師沢の石張水路工』が、文化庁が諮問する文化審議会の答申を経て、平成21年1月8日付けで「登録有形文化財」に登録されました。

「登録有形文化財」とは、「社会的な評価を受ける前に消滅していた文化価値のある建造物を、後世に継承するための制度」として、平成8年、文化財保護法の見直しにより始まった制度で、築後50年を経過している建造物で、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」、「造形の規範となっているもの」、「再現することが容易でないもの」という基準に基づき登録されるものです。長野県では平成14年に松本市の牛伏川フランス式階段工と、同梓川の釜ヶ淵堰堤とが既に登録されており、明治時代の砂防施設登録は4カ所となりました。

今回登録された施設は、いずれも野面石を人力で積み上げたもので、国土の歴史的景観に寄与することはもちろんですが、特筆すべき点は、明治10年代、長野の中山間地において、住民の皆さんが当たり前「砂防」という言葉を使い、施工から維持管理まで継続して取り組まれてきたことです。これらの施設が文化財として認められたのも、薬師沢で現在も活動を続け、荏沢川でも当時の「工事竣工箇所一覧図（表紙参照）」に記録がある「砂防惣代」に象徴される地域の取り組みによって、施設が保存されてきたからこそだったのです。



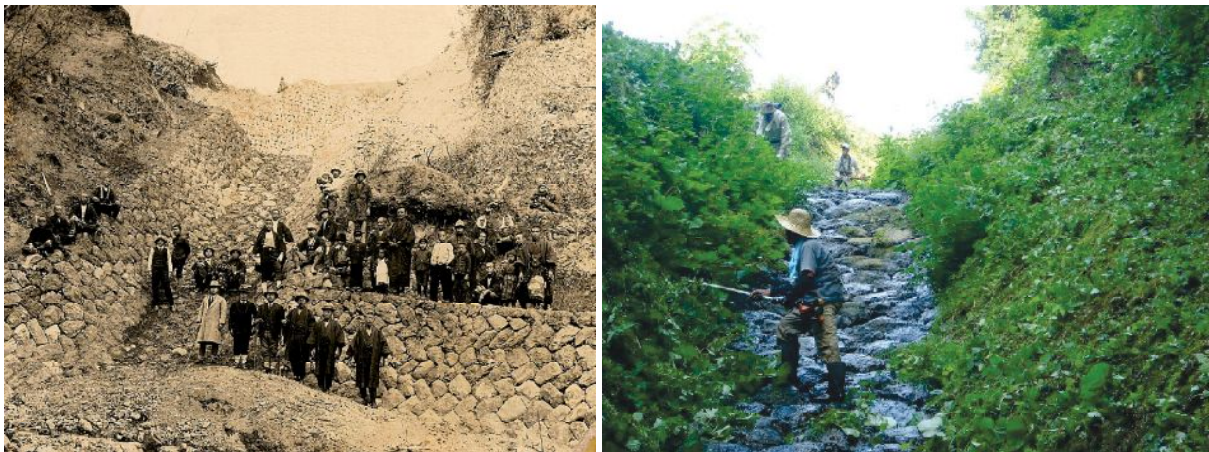
保管されている薬師沢砂防惣代に関する名簿・日誌

今回の登録を機会に、多くの皆さんにこれらの施設の存在を知っていただき、足を運んでいただければと思います。そして、これからも地域における保存活動の輪が広がり、施設周辺の景観整備が一層進むことを期待するところです。

施設の詳しい内容に関するお問い合わせは、砂防課もしくは、千曲建設事務所（荏沢川）、土尻川砂防事務所（薬師沢）までお寄せください。



荏沢川7号石堰堤と、現地に設置された登録有形文化財プレート



薬師沢石張り水路、左は昭和10年撮影、右は現在の維持管理の状況。

■砂防惣代とは・・・

「稲丘地区を4つに区割りした地区ごとに砂防惣代が選出されて、4人の惣代の中から持ち回りで惣代長が決まります。砂防惣代は明治18年に作られて、私は26代目、120年以上も続いているわけです。内容としては砂防工事の要望を伝えるとか、当時の砂防工事を行う際の条件となっていた作業員の確保、当時は工事費用の一部を地元で負担するように言われていたので寄付金確保の割り振り、調整も行われていました。砂防工事の影響を大きく受ける農家と受けない農家がありましたので寄付金の負担の調整が大きな問題になったのではないかと思います。」

（平成20年度土砂災害防止推進の集い松本大会にて 薬師沢砂防惣代 古林徳文さん）

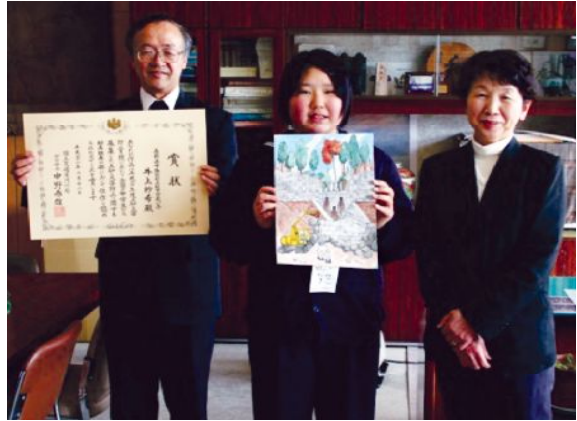
表紙の「・・・桑原村砂防工事竣工箇所一覧之図」にも、地域関係者として「砂防惣代」との記載がある。当時から「砂防惣代」が各地域において砂防工事の取りまとめをしてきたことがわかる。

「土砂災害防止に関する絵画、ポスター、作文」砂防部長賞受賞

～ 絵画の部 ～



小学生の部
小坂あかりさん
 (岡谷市立湊小学校 6年)



中学生の部
 いのうえ **さき**
井上 紗希さん
 (下諏訪町立社中学校 1年)

絵画 (小学生) の部 受賞作品



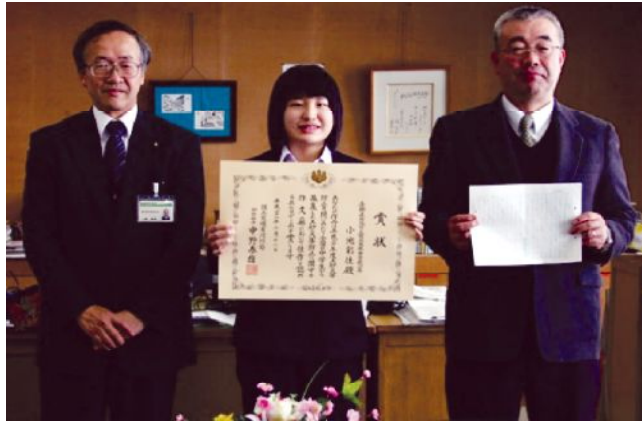
小坂あかり

絵画 (中学生) の部 受賞作品



井上 紗希

～ 作文の部 ～



中学生の部

小池 彩佳さん
(岡谷市立岡谷西部中学校 2年)

作文(中学生)の部 受賞作品

『自然の力の恐ろしさ』

岡谷市立岡谷西部中学校2年 小池 彩佳

それは、今から二年前の七月。私が小学校六年生の時でした。朝、いつも通りに起きるとお父さんが慌てています。家の前の道路脇の側溝から水があふれ出していました。それは数日間続いた長雨の影響でした。

どこか遠くの方では、サイレンも鳴っています。向いの道路を消防車やパトカーが過ぎて行きました。その時私は、とても恐くなり何か大変な事が起きなければ良いと思っていた。それから、間もなくです。雨が降り続きさっきまで側溝からあふれ出していた水が道路全体に広がり、さらに勢いが強くなりあっという間に、道路が川になってしまいました。その水は家の床下にも入り込み、私の家では身動きが取れなくなりました。もちろん自動車を動かす事も出来ません。川になってしまった道路には、大量の水と一緒にボールぐらいある大きさの石が次から次へと、ゴロゴロと音を立てながら流れてくるのです。その光景を私は産まれて初めて見ました。人間の力で持ち上げられない様な大きな石をどんとどんと流してくる水の勢いに恐怖を感じました。近くでは、いつもは静かに流れている道路下の川があふれ出し、アスファルトがひびわれ水の力で持ち上げてしまい、もう人間が近寄る事はできません。そこから、あふれ出した土砂が近くの

家へ流れ込みその家の人は必死に避難していました。大人の人達が集まり土嚢を積み上げて土砂の流れる方向を変えたり、家を守る為に水をせき止めたりしていました。

街全体がパニック状態になってしまいました。他の地区では山から流れ出した土砂が一気に家や人々をのみ込んでしまい、大切な命をなくした人、ずっと暮らして来た家をなくしてしまった人が沢山いました。私の家は、床の下に水が入って来たぐらいでしたから、もっともっと大変な思いをした人達が沢山いたんだなあという事が後になってだんだんわかってきました。川になっていた道路が元に戻ったのは何日も過ぎてからでした。いつもの生活に戻ったのは一ヶ月以上過ぎてからでした。そして川を大きく広げ、道路が治されて安心して暮らせる元の生活環境に戻ったのは最近の事でした。なぜあんなにも沢山の雨が降り、土砂災害が発生してしまったのか？私にはよくわかりませんが、お父さんは「山がもっと強くなれる様に人間が大切にしていなければいけなかった。環境破壊に自然が怒り出してしまい異常気象が発生してこんな事になってしまった」と言っていました。人間の命をも奪ってしまう土砂災害が二度と起きない為に、大きな力強い木が育つ様な工夫をしたり、自然環境が破壊されない様な一人一人の心掛けが、本当に大切な事だと思います。そして、大雨に負けないような力強い山が出来て、大水に絶えられる様な環境や設備の整った、安心して暮らせる街をみんなで造っていきたいと思います。